

「何の災禍もなく平穩無事に、一生を送りたい」。多くの人が願うところだが、そんな人生を送ることはとうてい困難なことだ。人間は生きていく限りにおいて苦勞や悲しみからは逃れがたく、避けがたいものだ。たとえどんなに順風満帆な人生であったとしても、最後には死と向き合わなければいけないという厳しい現実が待っているのだ。

人生の苦惱からの解放は、煩悩からの解放だが生きていく限り到底できることではない。神仏にすがり頼ろうとする人間の弱さは痛いほどわかるが、所詮は空しい努力でしかないことを知るべきだ。しからば「あるがままに」、「ただ念仏して」ひたすら後生を願う以外には道はないのではないか、と思う。

雑行（ぞうぎょう）・雑善（御仏の願い選ばれた行ではない、自力の力を頼んで行う種種雑多な行と、その行うことによる善）の心を捨ててただひたすらに頼むところに、み仏の光が届くのではないかと。

不自由になった今こそ

瑞穂市 M・Kさん

私はもう少して八十六才となります。八十年間の人生は苦勞も多かったのですが、あっといふ間の事でした。お文さんに「人生は夢まぼろしのごとし」とありますが、今しみじみとそのことを実感している次第です。後悔することも、良かったなと思うことも様々ですが、過ぎ去ってみるとほんとうに夢のような一期でした。

残された人生もこんな調子に終わっていくのかと少々焦りも致しますが、今となってはどうにも仕方ありません。せめて仏法に耳を傾けて、残された人生の意味を遅れ馳せながら尋ねていこうかと思ってもみるのですが、歩くのもままならない状態にこころ二年でなってしまうました。まして座ったり立ったりは至難の事となり、お参りも儘なりません。

幸いにも月に一度ご院さんが主人の月命日にお越しく下さり、少しお話を聞かせていただいたり、新聞（通信）や帰命無量の解説資料をいただいたりして、それを読んで心を落ち着かせています。日頃は何か用としてはございませんし、嫁も孫もよくしてくるので、不足とは無いのですが、どこか心の奥底で満たされない、ざわざわとした落ち着かないものがあります。

主人が亡くなってもう八年になり、仏法を聞く機会がなかったわけではないのですが、忙しさを口実にしたり、小難しい話を聞く気にもならず、お金と健康だけを頼りに人生を楽しんでいる気になってしまっています。しかし、この年になってくるとどうにも不安で、夜になると眠れなくなることがあります。睡眠薬を飲んで眠ることもあるのですが、目覚めが決して良いものではないのです。

「心からの安心が欲しいな」と思うればこの安心をいただくことができるのだろうか、この年になって初めて仏法に心を寄せてみようと思っただけです。気が付けばこの状態に悔やまれることにはなりませんが、せめて今日一日の私の人生を仏法に照らし合わせながら生きてみよう、その繰り返しの中で生きていきます。

光受寺合唱団結成いたしました。・・・十月より活動が始まります。

秋季永代経当日、光受寺の仏教賛歌合唱団（仮の名称です）が結成されました。まだ団員は不確定ではありませんが、何とか十五名ぐらいの方のご協力がいただけませんかと期待しています。結成日当日はテープを流してみました。皆様が自然に声を出してくださる、ああ、もうすでに御遠忌がここに始まっているのだと実感いたしました。講師として通性寺坊守様（岐阜教区十組）をお願いしております。

十月十七日（土）午後一時三十分より光受寺本堂にて。

歌うことに意義があり。多くの方のご参加を期待しております。（年齢・性別不問）



稚児申込み情報・・・9月29日現在で90名の方にお申し込みをいただきました。



誠にありがとうございました。

なお、申込人数が150名となっておりますので、申込期間中に関わらず定員になりましたら締切とさせていただきますこととなります。改めてのお願いとお断りを申し上げます。よろしくお願いいたします。



総集

本堂改修工事については完成しました。



外塀も塗り替えました。



今思えば大変な工事でしたが・・・



お内陣、須弥壇、巻き障子等お洗濯させていただきました。見違えるように荘厳な感じとなりました。隙間風が冷たかった報恩講。今では懐かしささえも覚えるのですが、やはり今がいいですね～。

書院がしんどいことになっていた。



トイレに通じる縁の張替も残っている工事の一つです。



行事以外ではほとんど使われない部屋ではありますが、行事があると欠かすことのできない部屋になります。無駄なようで無駄でないこの平屋の家が大きく傾いてしまっていることに改めて気づきました。写真の様に補修の跡がありますが、さらに10センチ以上傾いています。50年ほど経っている家ですので、壊したほうが早いかもしれませんが、まだ十分利用できる状態ですので、建てお越しをしようと役員会で検討し、施工していただくこととなりました。御遠慮まであまり時間がありませんが、何とか間に合うようお願いをしたところです。よろしくご理解いただきますようお願いいたします。